

ILO の創設と 日本の労働行政

吉岡 吉典 著

46判・336頁／定価 [本体 3000円+税]



著者プロフィール

1928年鳥根県生まれ。2009年3月講演訪問先のソウルにて死去(享年80歳)。元『赤旗』編集局長、日本共産党政策委員長。1986年に参議院議員初当選。連続3期務め、同党参議院議員団長、参議院懲罰委員長、同労働社会政策委員長などを歴任。安全保障問題、労働問題、日韓問題などのエキスパート(関連著作多数)。

12月5日
刊行!

国際条約の水準を日本の常識にする改革が急務!

世界に例を見ない“過労死”“派遣村”という現状を生んだ日本の労働行政の源流を、外交文書を駆使して解明する。

主な目次

序章 ILOの到達点と日本の現状

第一章 資本主義初期の労働者階級の状態

第二章 闘争でかちとった諸権利

第三章 労働保護法制の発展

第四章 パリ講和会議の労働問題審議と日本

第五章 国際基準の例外化に全力をあげた日本代表

第六章 労働代表委員選出をめぐる

第七章 労働運動の高揚とILO総会

第八章 第一回国際労働総会と八時間労働制

第九章 日本適用除外をめぐる論議

第十章 ILO条約批准にみる日本政府の立場

大月書店

東京都文京区本郷 2-11-9

Tel.03-3813-4651

Fax.03-3813-4656

注文書	吉岡吉典著 ILOの創設と日本の労働行政 大月書店 本体 3000円 [ISBN978-4-272-31047-0]		取扱書店	
	お名前	ご住所/電話		冊数
	〒 —	(Tel. — —)		